

GLHSとは

- 事業目的：豊かな感性と幅広い教養を身に付け社会に貢献する志を持つ、知識を基盤とするこれからのグローバル社会をリードする人材を育成する。（平成22年3月教育委員会会議）

育成されるべき力 ① 幅広い教養と高い専門性
 ② 高い志（社会貢献）と豊かな人間性
 ③ 英語運用能力

■ 評価項目

		大項目	小項目
各 学 校 独 自 の 取 組	I	確かな学力の向上を図る	・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解カリテラシー、科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他（基礎学力の充実・学習習慣・自学自習の確立…ほか）
	II	豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	・違いを認め共に生きる力 ・共感性、協調性 ・健康、体力 ・その他（人権尊重の涵養、自尊感情の育成…ほか）
	III	高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	・進路実現 ・規範意識 ・高い志（こころざし） ・その他（高大連携の推進…ほか）
	IV	教員の指導力向上をめざす	・授業力向上 ・教材開発 ・その他（教員研修の充実、他府県の先進事例の研究…ほか）
共 通 の 取 組	V	共通	★総合的な学力の測定 ～学力診断共通テスト～ ★読解カリテラシー・科学的リテラシー ～全国規模のコンクール・コンテスト実績～ ★英語運用能力の育成 ★進路実現・進学実績 ～大学合格者数等～

■ 評価

- 各学校独自の取組 【パフォーマンス評価】
 - ・大項目ごとに2つ以上の取組を計画。小項目は教育委員会が示す項目を参考に設定。
 - ・取組指標、取組指標の目標値、成果指標、成果指標の目標値を予め設定
 - 取組実績（パフォーマンス）に基づき、各学校が自己評価（A・B・C 3段階評価）
 - 評価審議会が大項目ごとに評価（AA・A・B・C 4段階評価）
- 10校共通の取組 【実績評価】
 - ・教育委員会が示した小項目に基づき、各校が取組を計画
 - 取組実績に基づき、各学校が自己評価（A・B・C 3段階評価）
 - 評価審議会が小項目ごとに評価
 - 評価審議会が各校の実績を評価（AAA・AA・A・B・C 5段階評価）

評価審議会

- 外部評価委員（5名）で構成
 - 淡路 敏之 氏
京都大学副学長
 - 菊地 栄治 氏
早稲田大学教育・総合科学学術院教授
 - 浅野 良一 氏
兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授
 - 三輪 昭 氏
外務省特命全権大使（関西担当）政府代表
 - 三澤 廣人 氏
ヤンマー株式会社監査役

☆毎年の評価

- 評価審議会の開催
- 委員による学校視察
- 委員による校長ヒアリング

- ・各学校独自の取組および共通の取組を評価
 ⇒ 評価結果公表

☆3年間の総合評価【10段階評価】

各年のパフォーマンス評価を総合評価
 (AAA・AA・A・B・C 5段階評価)
 +
 3年間目の実績を評価
 (AAA・AA・A・B・C 5段階評価)